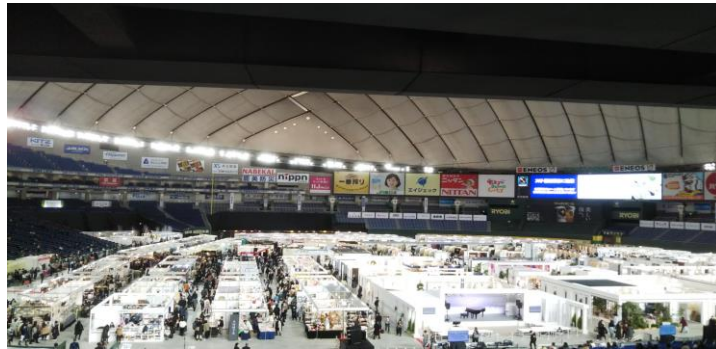


行政視察報告書

多治見市議会 アーネストクラブ

1 日 に ち	令和2年2月6日（木） 15時00分～17時00分
2 視 察 先	東京都文京区後楽1-3-61 東京ドーム
3 参 加 者	若尾敏之
4 調 査 内 容	テーマ： テーブルウェア・フェスティバル2020 ～ 暮らしを彩る器展 ～
5 所 感 主な質疑の内容 提 言 事 項 課 題 等	1993年から始まった日本の名窯から海外ブランドまでが一堂に会する国内最大級の「器の祭典」が2月2日から2月10日まで開催され今年も大変賑わっていました。 私が訪れた6日はピアニストで作曲家の国府弘子さんのスペシャルステージが行われていました。入場制限が掛かっていたので、残念でしたが、入ることができませんでした。 今年のテーブルウェア大賞は、オリジナルデザイン部門では、石川県の藤八屋・塩土純永さんの「彩本乾漆アラベスク文様オーバルBOX」が選ばれました。コーディネート部門では、広島県の砂田邦子さんの「大人の節句～二人の特別な時間を祝う食卓～」が選ばれました。 特別審査部門の麺を愉しむ「器」コンテストでは愛知県の大塚くるみさんの「Dice」が選ばれました。 同じく麺を愉しむ「食卓」コンテストでは岡山県の実義二さんの「落日の京を旅して」が選ばれました。 岐阜県の方は三宅日加里さんの作品「Metamorphosis」と多田聡志さんの作品「練込色彩皿・あさい」が1次審査通過の207作品の内の1点として展示されていました。 日本は勿論のこと大韓民国の出品者やニューヨーク在住の日本人の作品も選ばれていました。お隣りの愛知県は10点選ばれていました。 多治見のブースにも多くの方が訪れていました。 会場は毎年同じ場所で定着しているので、皆さん来やすいと思います。 土岐市も例年通り同じ場所で店を開いていましたが、こちらも多くの来場者で賑わっていました。 毎年訪れていますので多くのファンがみえることは十分に理解しておりますが、更には東京という会場設定も入場者数増に一役買っています。 東京で陶器の街「多治見」は、大いにアピール出来ていると思うのでこれからの販路拡大にみんなで努力してまいりましょう。

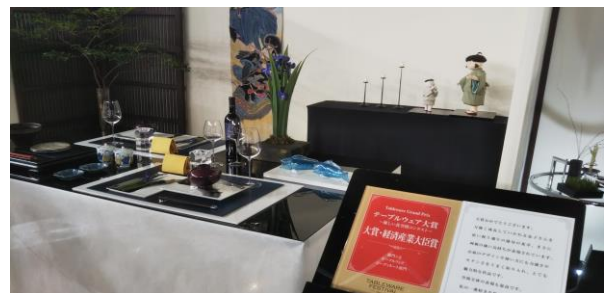
(1) 会場の様子



(2) テーブルウェア大賞



オリジナルデザイン部門



コーディネーター部門

(3) 多治見ブース

